

入賞

かけがえのない時間

岩出中学校 2年 増田 吏香

私は、おじいちゃんとおばあちゃんと過ごす時間は、ずっと当たり前のものだと思っていました。会えば一緒に食事をして、笑って、また次に会う。そんな日々がこれからも続いていくと、特に何も考えずに過ごしていました。しかし、おばあちゃんが認知症になってから、その考えは変わりました。同じ話を何度もしたり、さっきのことを忘れてしまったりする姿を見て、「当たり前」は当たり前ではないのだと気づきました。最初はどのように接したらよいのか分からず、戸惑うこともありました。だけど、一緒に過ごしていくうちに、大切なのは「忘れないこと」ではなく、「今この時間を一緒に過ごすこと」なのではないかと思うようになりました。

ある日、おばあちゃんと銭湯へ行きました。以前は普通にできていた入浴も、今では少し難しく感じているようで、私は背中を洗ってあげました。そのとき、おばあちゃんの背中がとても小さく感じられて、少し驚きました。小さいころ、私を抱っこしてくれていたおばあちゃんなのに、今は私が支えている。そのことが少し不思議で、少し寂しくて、だけど大切な時間だと思いました。おばあちゃんは入浴中、昔のことを話してくれることがあります。同じ話でも、私は何度でも聞きたいと思いました。今こうして一緒にいられる時間が、それだけ大切だと感じているからです。その声や表情も、しっかり覚えておきたいと思いました。帰るとき、おばあちゃんは「孫とこうしてお風呂に入れて、おばあちゃんは幸せだよ」と、少し涙ぐみながら話してくれました。その言葉を聞いたとき、胸がいっぱいになりました。この言葉は、これから先もずっと忘れないと思います。そして今度は、私の方からも「ありがとう」ときちんと伝えたいと思いました。おじいちゃんも、本当はつらい思いをしているはずです。大切なおばあちゃんが少しずつ変わっていく様子を、近くで見ているからです。それでも、家族で食事に出かけたときには、冗談を言ってみんなを笑わせてくれます。その笑いにつられて、おばあちゃんも笑っています。その様子を見ると、私はとても温かい気持ち

になります。そして、「笑うこと」が家族にとってどれだけ大切なのかも感じました。笑うことで寿命が約7年延びると言われています。本当かどうかは分かりません。だけど、少しでも長くこの時間が続くように、そして家族みんなの笑顔が増えるように、私にできることをしていきたいと思いました。何気ない会話や、食事の時間、同じ場所で過ごす時間。その一つ一つが、今ではとても大切なものと感じられます。前はあまり意識していなかった日常が、今は特別なものに思えるようになりました。そして、その時間は二度と同じ形では戻ってこないのだということも、少しずつ分かってきました。また、私はこれから、自分にできることについても考えるようになりました。特別なことではなくても、できることはあると思います。たくさん話しかけること、一緒に食事すること、手をつないで歩くこと、毎日の出来事を伝えること、そしておばあちゃんの話をしっかり聞くことです。こうしたことを大切にしていきたいです。

もしかすると、いつかおばあちゃんは私の名前を思い出せなくなる日が来るかもしれません。そう考えると、不安で悲しい気持ちになります。だけど、その日が来たとしても、一緒に過ごしてきた時間や気持ちはなくならないと思います。私が覚えている限り、その思い出はずっと残り続けると信じています。だから私は、今この時間を大切にしたいです。かけがえのない時間は、気づかぬうちに過ぎていきます。だからこそ、当たり前だと思わず、今ある時間を大切にしながら、これからも家族みんなと笑っている日々を過ごしていきたいです。